

◎ピートル チュアブル錠・△顆粒分包 [内]

【重要度】 【一般製剤名】 スクロオキシ水酸化鉄 Sucroferic Oxyhydroxide 【分類】 高リン血症治療薬

【単位】 ◎250mg・◎500mg/錠・△顆粒分包

【常用量】 1回 250mg, 1日3回より開始 [最大 3000mg/日] ■増量は最大 750mg/日幅

【用法】 食直前に噛み砕いて服用

【透析患者への投与方法】 常用量 (1)

【その他の報告】 セベラマーより低用量で効果があり, 鉄過剰の原因にならない (Floege J, et al: Nephrol Dial Transplant 2015 PMID: 25691681)

セベラマーより忍容性が高い (Greig SL, et al: Drugs 75: 533-42, 2015)

他のリン吸着薬に併用してリン低下効果が増強し, 便秘スコアも4週目に有意に改善 (Suzuki D, et al: Pharmazie 72: 118-122, 2017 PMID: 29441865)

継続率は高くないが, 継続した例ではリン吸着薬の錠剤数が減らせ, ESA も減量できていた (Mitsuboshi S, et al: Yakugaku Zasshi 138: 135-139, 2018 PMID: 29311459)

【PD】 他剤からの切り替えにより錠剤数を5割以上削減できた (Kalantar-Zadeh K, et al: Am J Nephrol 2018 PMID: 29514139)

セベラマーより少ない錠剤数にてリン管理が可能で, 主な副作用は下痢, 黒色便 (Floege J, et al: Nephrol Dial Transplant 2017 PMID: 28339993)

【保存期 CKD 患者への投与方法】 発売時現在, 透析患者にのみ適用される (1)

【特徴】 第2鉄含有のリン吸着薬. チュアブル錠で, 口内で噛み砕いてから服用するが, 崩壊試験では10分間かけて完全に崩壊する. 鉄が遊離しにくい構造であり, 鉄過剰になりにくいとされる.

【主な副作用・毒性】 下痢, 便秘, 嘔吐, 悪心, 腹痛, 腹部不快感, 胃腸炎, 血清フェリチン増加, AST/ALT 上昇, CK 上昇, ヘモグロビン増加, 発疹, かゆみなど

【安全性に関する情報】 Ca 製剤と比較して血管石灰化を起こさない [ラット] (Cozzolino M, et al: Curr Drug Metab 15: 953-65, 2014)

透析患者の血中尿毒症性物質濃度 (IS, PCS) が上昇 [腸内細菌叢への影響なし] (Iguchi A, et al: Clin Exp Nephrol 2020 PMID: 32285213)

【排泄】 糞便中に排泄 (1)

【MW】 該当しない

【相互作用】 テトラサイクリン, レボチロキシン, セフジニル, レボドパ製剤, エルトロンボパグオラミンなどの吸収を低下させ作用減弱のおそれ (1) ロサルタン, フロセミド, ジゴキシン, ワルファリンとの相互作用のリスクは低い (Chong E, et al: J Nephrol 2014 PMID: 24699894)

【主な臨床報告】 phase3 報告 (Floege J, et al: Kidney Int 86: 638-47, 2014) 臨床試験のレビュー (Bousher A, et al: Clin Ther 36: 2082-93, 2014)

セベラマーとの効果安全性比較 (Xie D, et al: Int Urol Nephrol 2018 PMID: 29294216)

他のリン吸着薬に比べて必要な錠剤の数が抑制できる (Bousher A, et al: Clin Ther 2014 PMID: 25450474)

錠剤の数が減らせてリンが低下 (Ramos R, et al: BMC Nephrol 2020 PMID: 33287733)

【備考】 セベラマーの1/3量で同程度の効力 (1) 少し甘めのヨーグルト味

【更新日】 20230119

※正確な情報を掲載するように努力していますが, その正確性, 完全性, 適切性についていかなる責任も負わず, いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし, それらを利用した結果, 直接または間接的に生じた一切の問題について, 当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は, 日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。